



## 2023年度（2024年1月期） 第2四半期決算概要

---

ダイドーグループホールディングス株式会社  
（東証プライム：2590）

2023年8月28日

<b>01</b>	<b>2023年度第2四半期決算概要</b>	<b>P.06</b>
<b>02</b>	<b>2023年度業績予想</b>	<b>P.10</b>
<b>03</b>	<b>中期経営計画2026の取り組み</b>	<b>P.14</b>
<b>04</b>	<b>参考資料</b>	<b>P.22</b>

本資料内で記載する計数は百万円未満を切り捨て表示しているため、内訳と合計が合わない場合があります。なお、増減比等は、小数点第1位未満を四捨五入の上、表示しております。

本資料に記載されている、当社グループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の業績に関する見通しであり、これらは当社において現時点で入手可能な情報による当社経営陣の判断および仮定に基づいています。従って、実際の業績は、不確定要素や経済情勢その他リスク要因により、大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。

海外飲料事業の主要国であるトルコの子会社の財務諸表について、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、2022年度第2四半期連結会計期間より、会計上の調整を加えております。本資料内では「**超インフレ会計**」と表記します。

対象セグメント

海外飲料事業

## 記載のポイント

必要に応じ、超インフレ会計適用前の参考値を記載しております。

## IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」の概要

①超インフレ経済下とは、3年間の累積インフレ率が、100%に近づいているかまたは100%を超えている状態（トルコは2022年3月期に100%超）

②日本円換算時、資産・負債及び収益・費用項目を決算日レートで換算しなければならない。

	従来基準	IAS第29号適用後
BS科目	決算日レート	決算日レート
PL科目	期中平均レート	

③物価指数の変動を財務諸表に反映する必要がある

### ■ バランスシートへの影響

・棚卸資産、有形・無形固定資産等の**非貨幣性項目**は取得日・取引日から、資本金は出資時点から、それぞれ期末時点までの物価変動に応じて修正再表示

・利益剰余金は期末時点までの累積的な影響を反映

### ■ 損益計算書への影響

・すべての科目を、原則取引ごとに取り引時点から期末時点までの物価変動に応じて修正再表示

## 貸借対照表への主な影響

金融資産	有利子負債
売上債権	仕入債務
棚卸資産 <b>①</b>	その他
有形固定資産	純資産
・無形固定資産	資本金 <b>②</b>
その他	利益剰余金 <b>③</b>

- ①** 取得日・取引日から期末時点の物価変動に応じて修正再表示
- ②** 出資時点から期末時点の物価変動に応じて修正再表示
- ③** 期末時点までの累積的な影響を反映

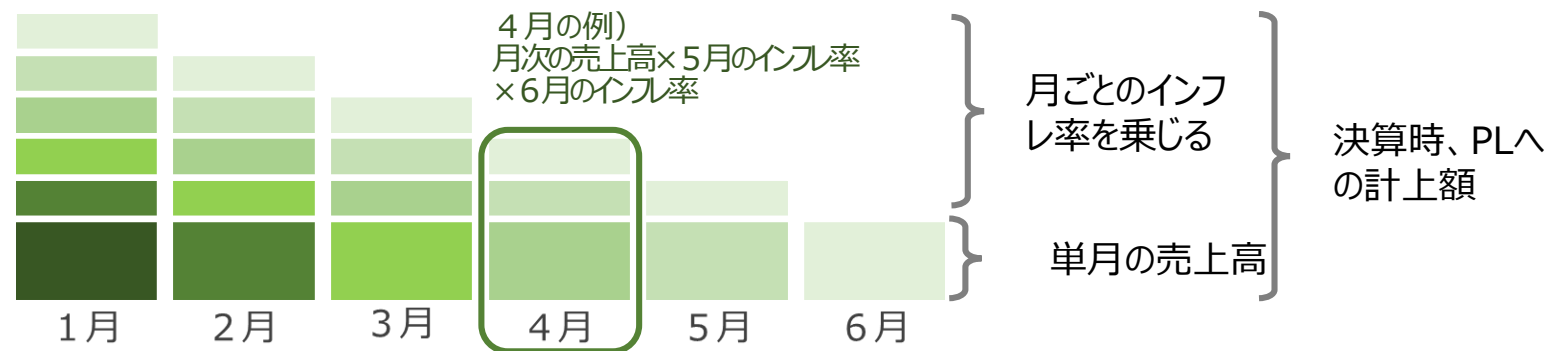
## 損益計算書への主な影響

(百万円)	連結PLへの影響額 (従来基準との差異)
売上高	△1,383
売上原価	
売上総利益	
販管費	
減価償却費	
営業利益	△530
営業外損益	194
経常利益	△336
法人税等	
当期純利益	△537

単月ごとにインフレ率を乗じ、現地の財務諸表を作成  
修正再表示後の資産をベースに、減価償却費  
(製造原価/販管費)等を再計算

法人税等調整額の増加

## 売上高・コストの計上イメージ (円換算前)



- **2023年度第2四半期は、売上高1,017億円（27.5%増）、営業利益25億円（249%増）**  
**各セグメントにおいて価格改定効果があらわれたことなどにより、連結で増収増益を達成**
  - ✓ 国内飲料事業は新会社ダイナミックベンディングネットワーク設立による子会社増加効果で大幅増収。昨年10月及び今年5月に実施した価格改定などにより収益性が改善し、増益。
  - ✓ 海外飲料事業は主力のトルコ飲料事業において、引き続きインフレ環境下によるコスト高が続くものの、戦略的な価格改定により、超インフレ会計適用後の日本円換算においても黒字化を達成。
  - ✓ 医薬品関連事業はドリンク剤・パウチ製品の受託製造の引き合いが強く、工場稼働率が上昇。販売も好調で、第2四半期として過去最高の売上高を記録。
  - ✓ 食品事業は昨年10月に実施した価格改定の効果があったほか、海外展開の拡大が進み、特需影響で好調だった昨年に並ぶ売上高。



# 01 2023年度第2四半期 決算概要

---

## 国内飲料事業における子会社増加効果、海外飲料事業における戦略的な価格改定が寄与し、増収各セグメントとも一定の価格改定効果があり、連結で増益を達成

- 国内飲料事業は子会社増加効果を除いたダイドードリンクのオーガニックベースでも増収増益
- 海外飲料事業は、現地会計ベースで第2四半期として過去最高の売上高と営業利益を達成

単位：百万円

	第2四半期 (1/21~7/20)									
	2022年度		2023年度						(ご参考) 超インフレ会計適用前 影響額	
		構成比		構成比	増減率	増減額				
売上高	79,781	100.0%	<b>101,746</b>	100.0%	27.5%	21,965	103,129	△1,383		
営業利益	723	0.9%	<b>2,527</b>	2.5%	249.2%	1,803	3,057	△530		
経常利益	461	0.6%	<b>1,773</b>	1.7%	284.0%	1,311	2,109	△336		
親会社株主に帰属する 四半期純損益	△869	△1.1%	<b>2,343</b>	2.3%	—	3,213	2,881	△537		
EPS	△55.54円		<b>149.29円</b>			204.83円				

# 2023年度第2四半期 連結業績 (セグメント別)



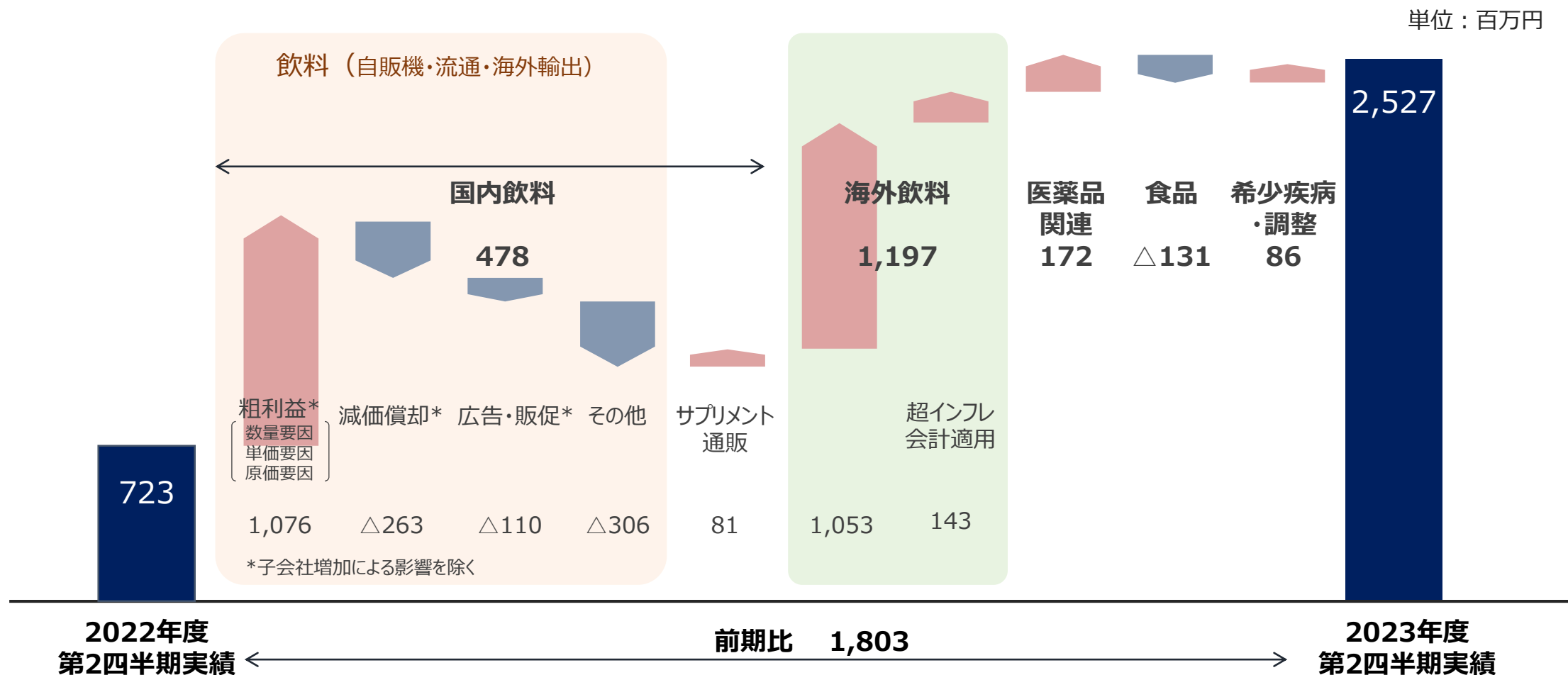
単位：百万円

	第2四半期 (1/21~7/20)							
	超インフレ会計適用後				超インフレ会計適用前			
	2022年度	2023年度	増減率	増減額	2022年度	2023年度	増減率	増減額
国内飲料事業	54,001	<b>74,253</b>	37.5%	20,252	54,001	<b>74,253</b>	37.5%	20,252
海外飲料事業	9,281	<b>10,459</b>	12.7%	1,177	8,616	<b>11,842</b>	37.4%	3,226
医薬品関連事業	5,956	<b>6,386</b>	7.2%	430	5,956	<b>6,386</b>	7.2%	430
食品事業	10,844	<b>10,850</b>	0.1%	6	10,844	<b>10,850</b>	0.1%	6
希少疾病用医薬品事業	—	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△302	<b>△204</b>	—	98	△302	<b>△204</b>	—	98
売上高合計	79,781	<b>101,746</b>	27.5%	21,965	79,115	<b>103,129</b>	30.4%	24,013
国内飲料事業	1,368	<b>1,847</b>	35.0%	478	1,368	<b>1,847</b>	35.0%	478
海外飲料事業	△735	<b>462</b>	—	1,197	△61	<b>992</b>	—	1,053
医薬品関連事業	66	<b>239</b>	257.6%	172	66	<b>239</b>	257.6%	172
食品事業	908	<b>776</b>	△14.5%	△131	908	<b>776</b>	△14.5%	△131
希少疾病用医薬品事業	△269	<b>△296</b>	—	△27	△269	<b>△296</b>	—	△27
調整額	△615	<b>△502</b>	—	113	△615	<b>△502</b>	—	113
営業利益合計	723	<b>2,527</b>	249.2%	1,803	1,397	<b>3,057</b>	118.8%	1,659



# 2023年度第2四半期 営業利益の増減要因（前期比）

国内飲料事業、海外飲料事業、医薬品関連事業において、価格改定やコスト削減が奏功し、増益  
 食品事業においては原価高騰により減益だったものの、連結では大幅増益を達成





## 02 2023年度業績予想

---

# 2023年度 連結決算業績予想



連結売上高は2,100億円（31.1%増）、連結営業利益は21億円（197.0%増）を予想

経常利益はリラ安による為替差損が影響も、第2四半期に有価証券売却益を計上し、最終利益は黒字転換の予想

単位：百万円

	通期							
	2022年度		2023年度（予想）				（ご参考） 超インフレ会計適用前 影響額	
		構成比		構成比	増減率	増減額		
売上高	160,130	100.0%	<b>210,000</b>	100.0%	31.1%	49,869	209,000	1,000
営業利益	707	0.4%	<b>2,100</b>	1.0%	197.0%	1,392	3,100	△1,000
経常利益	591	0.4%	<b>1,000</b>	0.5%	69.0%	408	2,200	△1,200
親会社株主に帰属する 当期純損益	△507	△0.3%	<b>400</b>	0.2%	—	907	2,000	△1,600
EPS	△32.40円		<b>25.47円</b>			57.87円		

# 2023年度 連結業績予想 (セグメント別)

国内飲料事業は、ダイナミックベンディングネットワークの設立により大幅増収、価格改定効果により増益を予想  
 海外飲料事業は、現地事業の状況が順調に推移し、前年比で大幅な改善を見込む

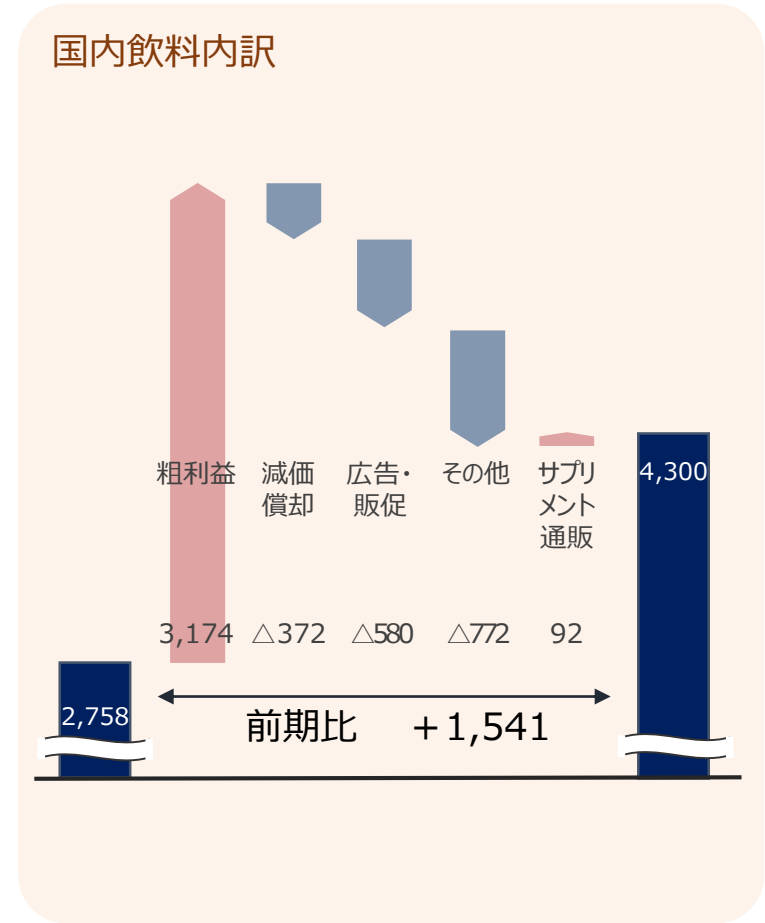
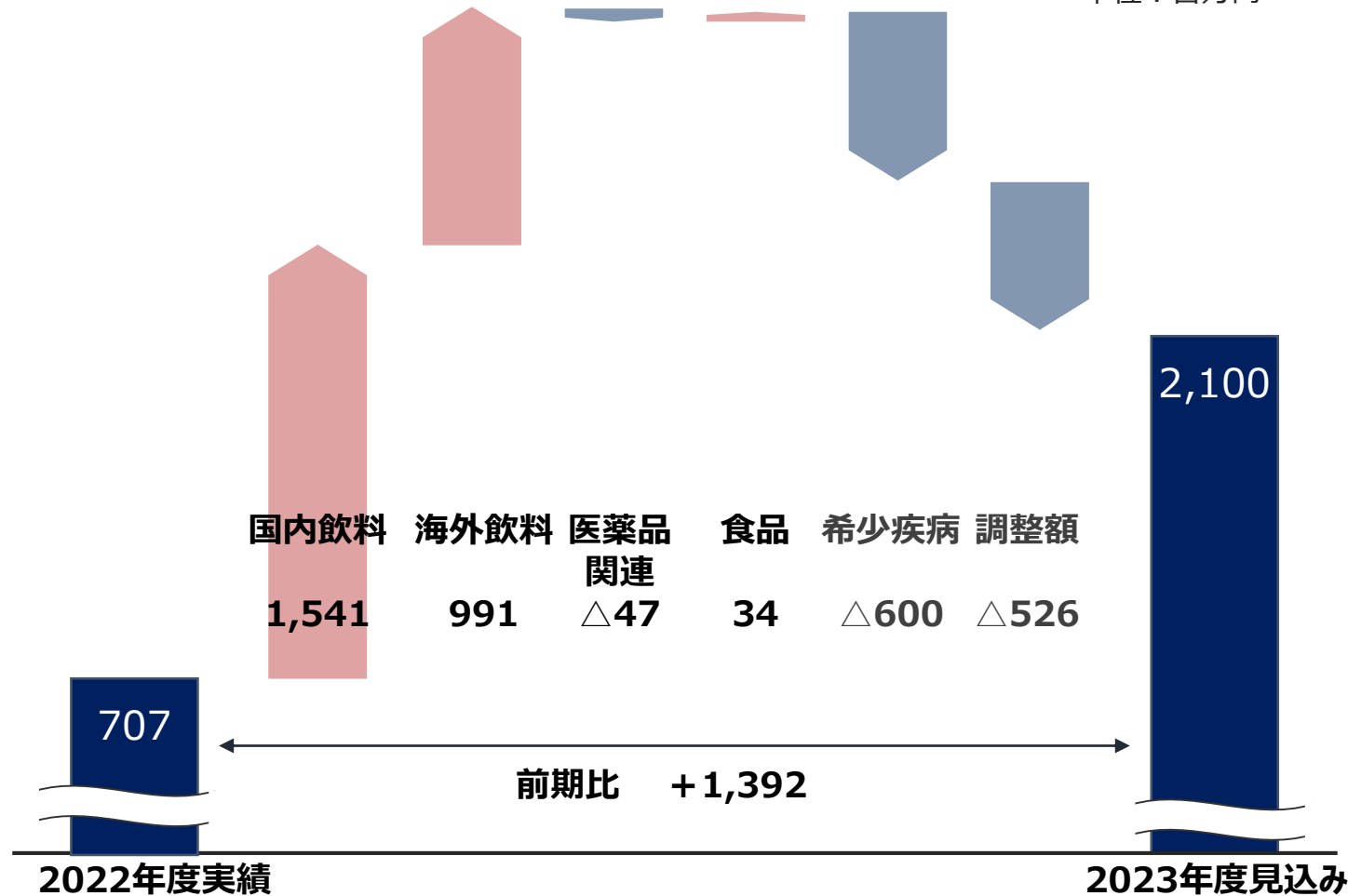
単位：百万円

	通期									
	超インフレ会計適用後				超インフレ会計適用前					
	2022年度 通期実績	2023年度 予想	増減率	増減額	2022年度 通期実績	2023年度 予想	増減率	増減額	期初発表	差異
国内飲料事業	109,770	<b>154,400</b>	40.7%	44,629	109,770	<b>154,400</b>	40.7%	44,629	154,400	0
海外飲料事業	18,909	<b>23,900</b>	26.4%	4,990	18,339	<b>22,900</b>	24.9%	4,560	26,700	△3,800
医薬品関連事業	12,522	<b>13,000</b>	3.8%	477	12,522	<b>13,000</b>	3.8%	477	13,000	0
食品事業	19,565	<b>19,300</b>	△1.4%	△265	19,565	<b>19,300</b>	△1.4%	△265	19,300	0
希少疾病用医薬品事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△636	<b>△600</b>	—	36	△636	<b>△600</b>	—	36	△600	0
売上高合計	160,130	<b>210,000</b>	31.1%	49,869	159,561	<b>209,000</b>	31.0%	49,438	212,800	△3,800
国内飲料事業	2,758	<b>4,300</b>	55.9%	1,541	2,758	<b>4,300</b>	55.9%	1,541	4,700	△400
海外飲料事業	△1,091	<b>△100</b>	—	991	52	<b>900</b>	1599.7%	847	300	600
医薬品関連事業	347	<b>300</b>	△13.8%	△47	347	<b>300</b>	△13.8%	△47	200	100
食品事業	765	<b>800</b>	4.5%	34	765	<b>800</b>	4.5%	34	700	100
希少疾病用医薬品事業	△499	<b>△1,100</b>	—	△600	△499	<b>△1,100</b>	—	△600	△1,000	△100
調整額	△1,573	<b>△2,100</b>	—	△526	△1,573	<b>△2,100</b>	—	△526	△2,200	100
営業利益合計	707	<b>2,100</b>	197.0%	1,392	1,851	<b>3,100</b>	67.4%	1,248	2,700	400

※国内飲料事業には、連結子会社の増加に伴う売上増約390億円を含みます。

## 国内飲料事業と海外飲料事業の収益改善が増益に大きく寄与

単位：百万円



## 03 中期経営計画2026の取り組み

---

# スマート・オペレーションのさらなる進化

## 自販機オペレーションの計画作成にAIを活用し、さらなる効率化を進める

### スマート・オペレーションによる提供価値拡大に向けた取り組み

- スマート・オペレーションに対応した新たな基幹システムに刷新
- 訪問先リストや補充商品を計画立案するAI機能を導入し、オペレーションのさらなる効率化と売上向上をめざす



## アサヒ飲料子会社のDyDoグループへの統合作業を進め、一体的な自販機運営をめざす

### 進捗中の統合作業

- DyDoグループ規定の適用
- 決算日の変更
- DyDoグループの基幹システムや業務システムの導入
- 支店や営業所などの組織体制の整備
- 自販機オペレーション用語の統一

### ダイナミックベンディングネットワークの概要

#### ダイナミック ベンディング ネットワーク

2023年  
1月設立

- ダイドービバレッジサービス
- ダイドービバレッジ静岡
- ダイドーベンディングジャパン
- アサヒ飲料販売
- ミチノク
- 九州アサヒ飲料販売

従業員数

**3,000** 人以上

自販機ネットワーク

約 **20** 万台

※対象6社の管理する自販機



## 超インフレ下でも、現地会計ベースでは収益を大幅に改善

### 既進出エリアでの事業の安定化と着実な成長

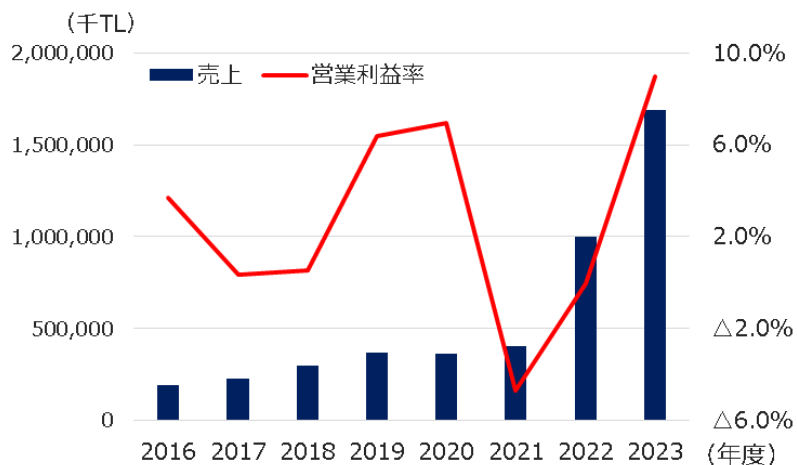
(トルコ)

- 事業環境においては急激なインフレによる消費マインドの一服、利益面ではリラ安やインフレによるコスト上昇など厳しい事業環境が続く
- コスト高を見越した価格改定を断続的に実施し、現地通貨ベースで売上伸長
- 価格改定による単価改善のほか、パッケージを中心とした調達コストの低減、販促費の抑制、物流費の低減によって、現地会計ベースでは収益性を大幅に改善
- トルコから欧州各国への輸出事業を拡大。2019年に現地法人を設立したUKでは、順調に配荷が拡大。事業の安定度を高める。

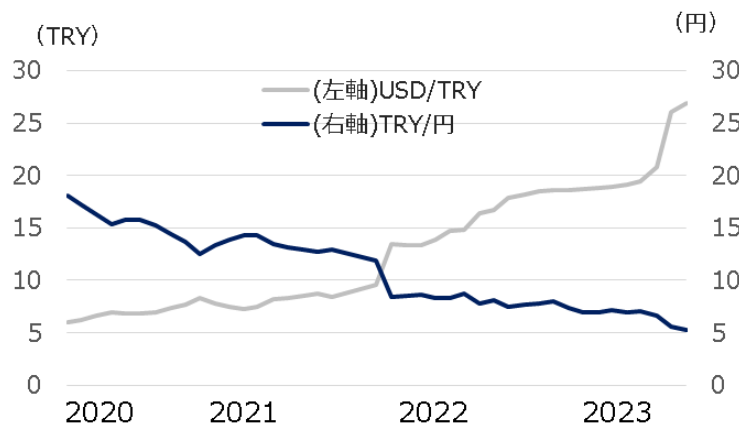
(中国)

- 2021年から開始した現地生産品目を増やし、着実な利益の積み上げをめざす

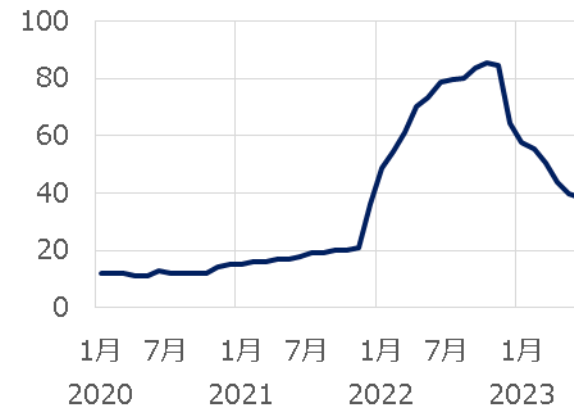
### トルコ飲料事業の上期業績 (現地会計ベース)



### トルコリラの為替レートの推移



### トルコのインフレ率の推移



## 既存事業がグループの売上・収益を支えるとともに、将来の収益ドライバーを育成

### 既存事業

- サプリメント通販（国内飲料事業）
  - 市場は引き続き拡大、競争環境は激化する中でも高収益を維持
  - 主力商品「ロコモプロ」を機能性表示食品としてリニューアルし、新規顧客獲得を強化

### ■ サプリメント通販の売上高の推移



### 新規事業

- 医薬品関連事業
  - 第2 四半期決算で売上高が過去最高を記録
  - パウチライン（2020年に稼働）は、高付加価値の医薬部外品商品受注が好調
- 医薬品関連事業の第2 四半期の売上高の推移
  - 第Ⅲ相試験の良好な解析結果の速報（中間データ）を取得
- 希少疾病用医薬品事業
  - DYD-301（アミファンプリジンリン酸塩）  
 予定適応症：  
 「ランバート・イートン筋無力症候群」  
 厚生労働省から希少疾病用医薬品の指定を受けており、現在、日本における薬事承認取得をめざして臨床開発中
  - DYD-701（LCAT遺伝子導入前脂肪細胞）  
 予定適応症：「家族性LCAT欠損症」  
 千葉大学にて家族性LCAT欠損症患者を対象に医師主導治験を実施中

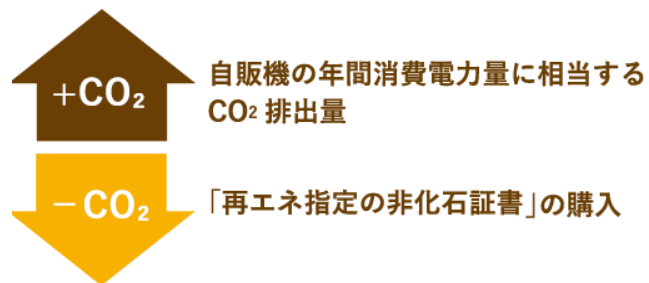
### ■ 医薬品関連事業の第2 四半期の売上高の推移



自販機ビジネスにおいて、カーボンニュートラル対応自販機やカーボンオフセット商品を展開併せて、自販機設置や商品購入に応じて植林する、「植林プロジェクト」も実施

## LOVE the EARTHベンダー

自販機の年間消費電力量に相当する「再エネ指定の非化石証書」により、自販機稼働時のCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロへ



約 **1,700** 台以上

## ボトル缶飲料「LOVE the EARTHシリーズ」

製造にかかる電力のうち、年間20万kWhを自然エネルギーでまかなうことで、年間約100tのCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献



グリーン電力マーク  
を取得

## 植林プロジェクト

- LOVE the EARTHベンダー導入のオプションとして、1台設置ごとに1本植林
- LOVE the EARTH シリーズを、年間100L（商品換算 260本分）販売毎に1本の植林

植林プロジェクトで植えた樹木の数  
(2022年9月21日～2023年7月20日)

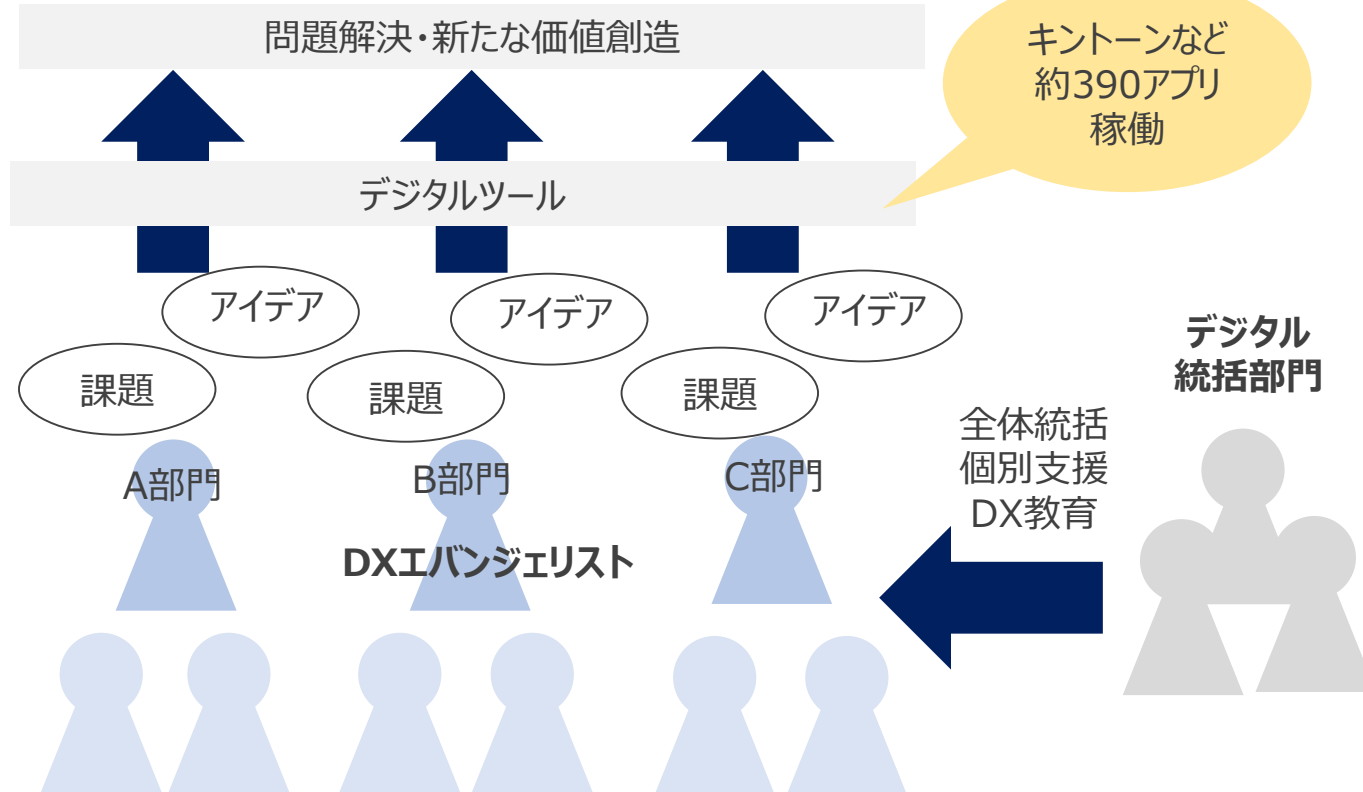
約 **300** 本 ※一部植林予定を含む

現場が主体となってデジタル技術を活用して問題解決や新たな価値創造を行える体制を整備

2023年7月からは、対話型AIの業務における実証実験をスタート

## 現場主体のDX推進体制

- 各部門にDX施策の立案・実践を担う「DXエバンジェリスト」を選任
- 自部署の課題に対して、デジタルによる解決策の検討・実行を担う



## 対話型AIの活用

- 日本マイクロソフト株式会社が提供するプラットフォームを活用した対話型AI「D-Brain」を開発
- グループ各社にて実証実験を2023年7月から開始し、業務における有用性の確立・有効的な利用方法等について検討を行う



「こころとからだに、おいしいものを。」お届けし、世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを創造する。

## 世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを 創造するDyDoグループへ

自販機市場において、  
絶え間ない挑戦と共創で  
新しい価値を提供し、  
トップランナーとして  
業界をリードし続けます

こころとからだに、  
おいしいものを。



治療選択肢のない  
希少疾病に苦しむ患者様へ  
治療薬を提供します

世界中の人々の健康を支える  
グローバルブランドを生み出します

「健康・美容」分野での  
製造受託企業NO.1になります

フルーツとゼリーを通して  
「おいしさ」と「健康」を追求し、  
すべての人々を幸せにします



## 04 參考資料

---

子会社増加効果により売上高が伸長したほか、価格改定効果などを受けセグメント利益も増益  
子会社増加効果を除外したオーガニックベースでも、増収増益で着地

単位：百万円

	第2四半期						通期					
	2022年度		2023年度				2022年度		2023年度			
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額
売上高	54,001	-	<b>74,253</b>	-	37.5%	20,252	109,770	-	<b>154,400</b>	-	40.7%	44,629
営業利益	1,368	2.5%	<b>1,847</b>	2.5%	35.0%	478	2,758	2.5%	<b>4,300</b>	2.8%	55.9%	1,541
減価償却費	2,232		<b>2,522</b>				4,632		<b>5,000</b>			
のれん償却額	-		<b>51</b>				-		<b>100</b>			

(対象期間：1月21日~7月20日)

- ▶ ダイナミックベンディングネットワークの設立による子会社増加効果により、大幅増収
- ▶ 子会社増加効果を除く基準でも、価格改定効果のほか、チャンネルミックスや製品ミックスの改善により販売単価が上昇し、増収で着地
- ▶ 5月実施の価格改定に関し、順調に自販機の販売価格の切り替えが進む
- ▶ 流通チャンネルでは、販売数量は前年並みを維持。好天により無糖茶が好調だったほか、価格改定効果により単価が上昇し、増収
- ▶ サプリメント通販は、競争環境が厳しくなる中で定期顧客の獲得に一定の成果。引き続き成長、収益貢献に向け取り組みを進めていく

■ チャンネル別売上高・販売数量

単位：百万円/千本

		2022年度		2023年度	
				増減率	増減額
売上高	自販機	45,802	<b>65,542</b>	43.1%	19,739
	流通・海外※	5,986	<b>6,517</b>	8.9%	531
	サプリメント通販	2,212	<b>2,193</b>	△0.8%	△18
	合計	54,001	<b>74,253</b>	37.5%	20,252
販売数量	自販機	528,720	<b>686,453</b>	29.8%	157,733
	流通	112,646	<b>111,712</b>	△0.8%	△934
	合計	641,366	<b>798,165</b>	24.4%	156,799

※「海外」には海外向け輸出分を計上。

トルコにおいては、急速なインフレに対応し、超インフレ会計適用後の日本円基準においても黒字転換

単位：百万円

	第2四半期							通期								
	2022年度		2023年度			(ご参考)		2022年度		2023年度			(ご参考)			
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	影響額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額	見込み	影響額
売上高	9,281	-	<b>10,459</b>	-	12.7%	1,177	11,842	△1,383	18,909	-	23,900	-	26.4%	4,990	22,900	1,000
営業損益	△735	△7.9%	<b>462</b>	4.4%	-	1,197	992	△530	△1,091	△5.8%	△100	△0.4%	-	991	900	△1,000
減価償却費	358		<b>343</b>		△4.3%	△15	212	130	718		1,500		108.8%	781	500	1,000
トルコリラ	8.21円		<b>5.57円</b>			△2.64円	<b>6.73円</b>		7.09円		5.20円			△1.89円	<b>6.00円</b>	
中国元	19.16円		<b>19.55円</b>			0.39円	-		19.52円		19.50円			△0.02円	-	

※ トルコリラは超インフレ会計適用前は期中平均レート、適用後は期末レートを適用

(対象期間：1月1日~6月30日)

▶ トルコ

- ・ インフレが継続する中、戦略的な価格改定が奏功。トルコにおける長期休暇が影響し販売ボリュームは減少したものの、現地通貨ベースの売上高は前年の約1.7倍
- ・ 各種営業施策やコスト削減施策の効果により、現地会計ベースで黒字転換、第2四半期として過去最高の営業利益を達成
- ・ 超インフレ会計適用後の日本円換算でも、黒字転換

▶ その他のエリア

- ・ 中国エリアにおいては、現地製造品をはじめ、販売が好調に推移。中国飲料市場の無糖茶カテゴリーにて一定のポジションを確立

■ トルコ飲料事業の現地会計ベース実績

2023年度前年同期比	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	累計
売上高	+110%	+48%			<b>+69%</b>
販売ボリューム	+0.1%	△9.2%			△5.0%



パウチ製品の好調な受注が継続、ドリンク剤の需要も回復し、増収増益

単位：百万円

	第2四半期						通期					
	2022年度		2023年度				2022年度		2023年度			
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額
売上高	5,956	-	<b>6,386</b>	-	7.2%	430	12,522	-	<b>13,000</b>	-	3.8%	477
営業利益	66	1.1%	<b>239</b>	3.8%	257.6%	172	347	2.8%	<b>300</b>	2.3%	△13.8%	△47
減価償却費	587		<b>575</b>				1,170		<b>1,200</b>			
					△1.9%	△11					2.5%	29

(対象期間：1月21日～7月20日)

- 昨年度に引き続き、ドリンク剤の回復及びパウチの好調により増収、第2四半期として過去最高の売上高を記録
- 受注増により工場稼働率も上昇し、生産体制の効率化も進む
- パウチ製品は引き続き増産体制が続く見通し
- 原材料価格は上昇したものの、価格改定により収益性が改善したことにより、増益

大同薬品工業の工場の概要

	製造品目	年間生産能力	
		ライン	数量
本社工場 (奈良)	びん	4ライン	350百万本
	パウチ	1ライン	30百万袋
関東工場 (群馬)	びん	1ライン	150百万本



大同薬品工業で  
受託製造可能な容器形態

昨年の特需による反動で数量減も、単価改善効果や海外の販売拡大で、好調だった前年並みの売上高を維持

単位：百万円

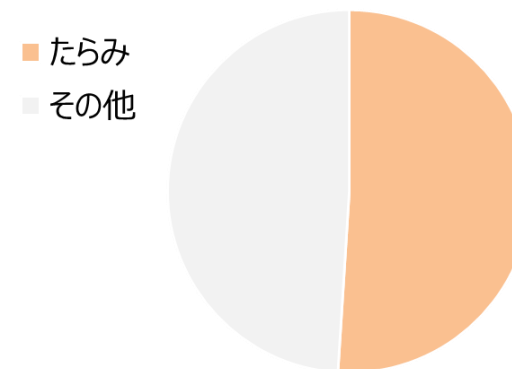
	第2四半期						通期					
	2022年度		2023年度				2022年度		2023年度			
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額
売上高	10,844	-	<b>10,850</b>	-	0.1%	6	19,565	-	<b>19,300</b>	-	△1.4%	△265
のれん等償却前営業利益	1,084	10.0%	<b>952</b>	8.8%	△12.1%	△131	1,117	5.7%	<b>1,151</b>	6.0%	3.1%	34
のれん等償却額	175	1.6%	<b>175</b>	1.6%	0.0%	0	351	1.8%	<b>351</b>	1.8%	0.0%	0
営業利益	908	8.4%	<b>776</b>	7.2%	△14.5%	△131	765	3.9%	<b>800</b>	4.1%	4.5%	34
減価償却費*	420		<b>440</b>		4.8%	20	848		<b>1,000</b>		17.8%	151

\*減価償却費には、一部、のれん等償却額に該当する費目を含む

(対象期間：1月1日~6月30日)

- ▶ ドライゼリー市場は前年同期並み、蒟蒻パウチゼリー市場は前年比111%と伸長
- ▶ 売上高は、好調だった昨年と比べ販売数量は減少したものの、単価の改善および海外輸出売上の増加によりカバーし、前年並みとなった
- ▶ 費用面では円安やインフレに起因する果肉や糖類などの原材料価格の高騰のほか、工場の操業に係る労務費などが上昇し、減益

■ たらみのドライゼリー市場シェア



※当社調べ、PB含む

## 「中期経営計画2026」達成への取り組みを推進し、キャッシュ・フローの回復を図る

### フリー・キャッシュ・フローの主な増減

単位：百万円

第2四半期	2022年度	2023年度	増減額
EBITDA（営業利益+減価償却費+のれん償却額）	4,660	6,967	2,307
運転資本のキャッシュ・フロー増減額	△2,271	△3,198	△927
その他	△2,812	△1,082	1,729
営業キャッシュ・フロー（a）	△423	2,685	3,109
有形及び無形固定資産の取得による支出（b）	△4,502	△5,841	△1,339
フリー・キャッシュ・フロー（a+b）	△4,926	△3,156	1,770

### 設備投資額

単位：百万円

第2四半期	2022年度	2023年度	増減額
国内飲料事業	4,232	5,522	1,289
海外飲料事業	288	423	135
医薬品関連事業	38	298	259
食品事業	499	200	△298
希少疾病用医薬品・その他	200	339	139
合計	5,259	6,785	1,525

### 減価償却費

単位：百万円

2022年度	2023年度	増減額
2,232	2,522	290
358	343	△15
587	575	△11
420	440	20
189	357	168
3,787	4,238	451